

生きていける賃金を出せ！ 希望者を全員、正社員にしろ！

CTS 職場ニュース

動労千葉（国鉄千葉動力車労働組合）

2022年1月26日

あらゆる物が
値上げ！

「2022年は値上げの年」

ニュースを見ていると、毎日のように食品・生活必需品・ガソリンなどの値上げのニュースばかりです。

右に上げたのは、すでに発表されている2022年の主な生活必需品の値上げスケジュールです。2022年は「値上げの年」と言われるほど、原油高、原料価格、輸送費の高騰などで、あらゆるものが値上がりしています。

22春闘で賃金引き上げを

CTSはこの2年間、コロナ禍とJR東日本の赤字を口実に、賃金のベースアップ（ベア）を見送ってきました。しかし、あらゆるものが値上げされる今年、賃上げをしなければ「実質賃金」は大きなマイナスになります。

現状でさえ約8割が「生活費足りない」

動労千葉が行った職場アンケートでは、回答者の78.2%が「生活費が不足」と回答しています（「時々不足」=39.7%、「いつも不足」=38.5%）。ここに、これほどの値上げが直撃したら本当に大変なことになります。

<昨年1年間の値上げ>

- ▽電気代 13.4%
- ▽ガス代 10.5%
- ▽灯油 36.0%
- ▽ガソリン 22.4%
- ▽電気・ガスは1月、2月も値上げ。
大手の一斉値上げは6カ月連続

【2022年1月】

- ▽パン 約4~14%値上げ
- ▽コーヒー（ネスレ）約10~20%
- ▽小麦粉 約1.5~9%
- ▽ポテチ（カルビー）7~10%
- ▽文房具（コクヨ）平均約8%
- ▽火災保険料：全国平均10.9%

【2月】

- ▽パスタ・パスタソース 約2.0~9.5%
- ▽冷凍食品 約2~23%
- ▽ちくわなど魚肉加工品 約5~13%
- ▽日本ハム 5~12%
- ▽食用油（J-オイルミルズ）1kg40円
- ▽ジャム（アヲハタ）3~7%
- ▽ポテチ（湖池屋）6~11%
- ▽醤油（キッコーマン）約4~10%
- ▽アルミホイル 15%以上

【3月】

- ▽マヨネーズ 約2~10%
- ▽伊藤ハム 4~12%
- ▽チルド麺（日清）6~12%
- ▽冷凍麺製品（日清）6~13%
- ▽醤油（ヤマサ）4~10%

【4月】

- ▽ウイスキー（サントリー）5~28%
- ▽照明器具（Panasonic）5~30%
- ▽首都高上限 1320円→1950円に
- ▽風呂・トイレ（LIXIL）最大40%
- ▽雇用保険料労働者負担 0.3%→0.5%

【5~7月】

- 予測 6月：カカオ豆、ピーナツ 10%
- 予測 6月：鶏肉 7~10%
- 予測 6月：フルーツ 5%
- 予測 5月：ビジネス衣類 15~20%
- 予測 7月：白物家電 10%

【8~12月】

- 予測 9月：魚介類 7~10%
- 予測 9月：豚肉最大5%
- 予測 9月：卵 7~10%
- 予測 9月：紅茶 10~20%
- 予測 9月：ビール 5%
- 予測 9月：米菓 7%
- 予測 10月：自動車・自転車・バイク
- 予測 10月：宅配送料3%値上げ
- 予測 10月：バス・タクシー3~5%
値上げ議論が本格化

賃上げなければ実質賃下げに

右のグラフにあるように、すでに昨年一年間で、実質賃金は大きく低下しています。22春闘では、物価上昇分だけでも数パーセントのベースアップが絶対に必要です。

今こそ労働組合が必要だ

生活できる賃金をかちとるためにも、今こそ労働組合が必要な時代です。

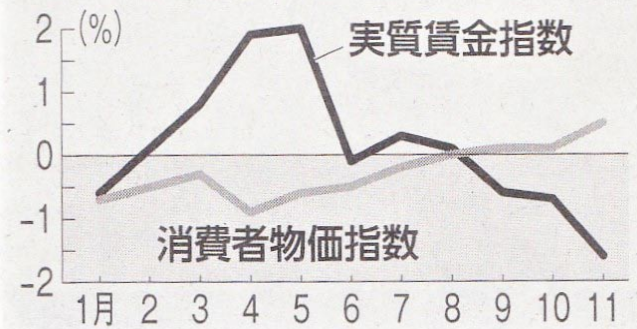
CTSは生活できる賃金を出せ！

将来展望が持てる賃金を出せ！

CTSで働くすべての仲間は、動労千葉に加入し22春闘をともに闘おう！

消費者物価指数(生鮮食品を除く)と実質賃金指数の前年同月比の推移

2021年。総務省と厚生労働省の統計から

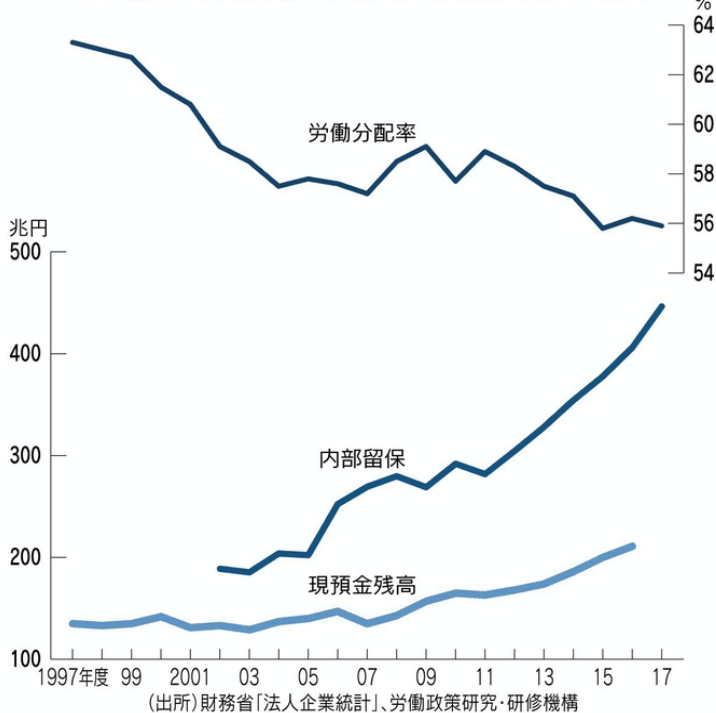


↑すでに昨年、物価は上がり
実質的な賃金は下落

企業ばかりが肥え太る↓

この20年間、日本の平均賃金は停滞を続ける一方、企業の内部留保は凄まじい勢いで増え続けてきました。労働分配率は下がる一方であり、大企業の内部留保はウナギのぼりに積みあがってきました。

日本企業の労働分配率、内部留保、現預金残高の動向



日本の平均賃金の停滞は諸外国と比べても際立っている↓

(単位:円) 資料:朝日新聞, OECD

